

独立行政法人国立病院機構
沖縄病院 広報誌

発行日
平成26年5月15日
第31号
発行所
沖縄県宜野湾市我如古3丁目20-14
編集発行 広報委員会



基本理念

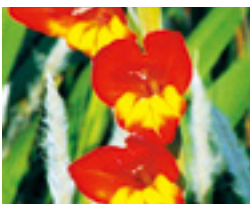
患者さまの立場を尊重し高度で良質の医療を提供します



中村家住宅(なかむらけじゅうたく)： 当院から北東に約11km。中村家住宅は19世紀初期頃に建てられたといわれる豪農の住宅。建築構造は、鎌倉・室町時代の日本建築の流れを伝えている。各部には特殊な手法が加えられ、土族屋敷の形式に農家の形式である高倉、納屋、畜舎などが付随しており、沖縄の住居建築の特色をすべて備えている。(国指定重要文化財：1972年)

運営方針

- ①政策医療を中心に、質の高い適切な医療サービスの提供
- ②患者さまの視点に立った、温かく思いやりのある接遇
- ③健全な経営基盤の確立
- ④安心して療養に専念できる快適な環境
- ⑤臨床研究の活性化と臨床教育・研修機能の充実



表紙の植物： グラジオラス / 学名： Gladius / アヤメ科 / 球根植物。南アフリカなどを原産地とする種類の園芸交配種。方言名はコシユクワ。原野、畑などに野生状態で生育する。沖縄にはかなり古い時代に入ったとされるが、現在野生化しているものと同種かは不明。

目次

「定年雑感」 名誉院長 石川 清司	2
「院長就任のごあいさつ」 院長 川畑 勉	3
「副院長就任のごあいさつ」 副院長 大湾 勤子	4
新戦力紹介	5
平成25年度 職員表彰	9
沖縄病院医師診療分野一覧	10
感動と幸せのウォッチング	11
永年勤続者表彰	12

ロゴマークの意味



南国沖縄のイメージを表現する為に、原色(はっきりとした色)を基調とし、ベースは沖縄 okinawa の“O(オー)”を表しています。肉太い赤で太陽を表現。中は波をブルーで表し、全体として健康を象徴する人間の笑顔をかたち取っています。



定 年 雑 感

国立病院機構沖縄病院
名誉院長 石川 清司

はじめに

13年間の院長生活を、長年にわたりご支援・ご指導くださいました皆様方に感謝申し上げます。

旧筋ジス病棟の新築が任期中に実現できなかったことに対しては、期待して待ち望んでいた多くの患者さんに心よりお詫びを申し上げます。

光陰矢のごとし

戦後の混乱期。貧困にあえぐ沖縄の片田舎。警察官であった父親の殉職(私が3歳)。当時の沖縄の田舎は電気は無く、ランプでの生活。貧しくても、暗さは全くなかった。

国費国内留学制度が無ければ進学できる経済状況にはなかった。田舎の山猿が、大学紛争に巻き込まれた。政治、経済、哲学。医学とは無縁の大学生活をおくる。

良き師に恵まれる

岡山大学医学部第一外科は徒弟制度そのものの医局。不勉強の、できの悪い息子ほど、かわいがってもらった。琉球大学保健学科付属病院においても良き師に恵まれた。

国立療養所沖縄病院

医師の絶対数の不足した時代であった。呼吸器外科は結核の外科から肺がんの外科への移行期。断層撮影からCTへ、気管支造影が不要となり、電子ファイバースコープが駆使され、後側方開胸から胸腔鏡の時代へと変遷。

減少する結核対策に結核病床を種別変更し神経難病病床を開設。

国立病院機構沖縄病院

ISOによる職員の意識改革。外来化学療法室・緩和ケア病棟の開設。一般病床の「がん専門病棟」への種別変更。フィルムが姿を消し、紙の時代から電子カルテへ。大型医療機器の更新。地域連携室・理学療法室の強化。

医局員と他部門との良好な連携がPDCAサイクルの回転を加速する。

重粒子線施設と沖縄

肺がんが重粒子線治療の最大のターゲットとなるため、近接する琉球大学との連携で重粒子線治療施設の誘致を望んだ。政局とからめた重粒子線

治療施設は、いかようなものになるのであろうか。

青い海は沖縄の宝である。基地関連交付金頼みの政治から、自立への道を探らなければならない。

国立病院機構

「償還計画」のブレーキのみでは展望が開けない。個々の施設が、個々の課題を抱えている。時宜を得た飛躍の機会を逃してはならない。機構全体として各施設の基礎体力の増強にてこ入れをしなければならない。各施設の長所を生かし、短所の改善・改革を図る。しかも地域医療との関わりの中で。

「夢」そして展望

国立病院機構琉球病院との連携。「心療内科」を開設。琉球病院にとっては、都市型精神疾患への参入、沖縄病院にとっては緩和ケアの充実を図る。ハンセン療養所の生活習慣病対策を担う総合診療部門の充実を図る。

脳神経外科を開設し、付属「神経・筋センター」の設立を夢に見たこともあった。再度、検討に値するものと考えたい。

放射線治療施設の乱立は、離島県には好ましくない。「サイバーナイフ」を導入し、I期肺がんの治療と転移性脳腫瘍の治療に新たな展開を図り、放射線治療センター構想も有意義である。

重粒子線施設誘致の当院への誘致は挫折した。空き地を有効に活用し、「メディカルプラザ国立病院機構沖縄医療センター」の建設。外部資金を導入して建物を建設し、生活習慣病に対応したクリニックの入居参入をうながし病院街となす。最新の大型医療機器の共同有効利用により、ランニングコストを最小限に抑えた効率的な医療を展開し、地域医療に貢献する道を探るのも一つの方向性。

むすびに

結核を含む「呼吸器センター」、筋ジスを含む「神経・筋センター」、肺がんを含む「がんセンター」の3本の診療の柱を堅持しつつ、もう1本の柱を模索したい。沖縄の地域医療の充実のために貢献するとともに、近接する琉球大学との連携により臨床研究の活性化を図り、全国に発信できる業績の蓄積を期待したい。





院長就任のごあいさつ

国立病院機構沖縄病院
院長 川畑 勉

陽春の候、皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

私こと、この度4月1日付けで石川清司先生の定年退任に伴いまして後任の院長を拝命いたしました。身に余る光栄と責任の重さをひしひしと感じているところです。今日の沖縄病院を築き上げてこられた石川名誉院長の偉大さを考えますと、引き継いだ責任の幾ばくかでも果たすべく病院職員の先頭に立って日常の診療や病院の運営に一生懸命頑張りますので皆様にはこれまでと同様にご指導・ご鞭撻のほどお願いいたします。また副院長時代に大変お世話になりましたことあらためて感謝を申し上げます。なお後任の副院長には大湾勤子緩和医療科医長が就任しました。引き続き皆様のご支援をお願いいたします。

さて当院は今後も国の政策医療を担うことには変わりはなく沖縄県の地域医療の枠組みの中で結核を含む『呼吸器センター』、筋ジストロフィーを含む『神経・筋センター』、『肺癌治療センター』的な役割を担ってきました。セーフティネット系医療を含むこれらの特化した機能の診療内容をさらに充実させるため大型機器を整備し診断技術の向上と患者さんの要望に応えられるような治療成績のさらなる向上に邁進します。

当院の短期目標は1. 神経内科病棟の建て替えです。新病棟への移転を契機に今後も増えることが予想される神経内科疾患治療の拠点として診療領域の拡大と専門領域のさらなる向上、高度で良質の医療の提供に努めます。2. 肺癌診療の拠点として気管支鏡治療・低侵襲手術・放射線治療・化学療法を駆使した総合的な医療を提供します。3. 地域連携室の強化は必須です。大型医療機器(MRI, CT)の共同利用を通して他医療機関との連携を深めたいと思っています。4. 緩和ケア医療をさらに充実させます。緩和ケア専門医・心療内科医・認定看護師を含む職種を超えたチームで取り組みます。5. 臨床研究部を強化します。部長を先頭に神経・筋病態生理、呼吸器疾患、癌の集学的治療、画像・内視鏡の各研究室長・室員が一体となって課題に取り組みます。6. 最終的には特定癌拠点病院を目指すべく職員一丸となって努力いたしますので皆様のご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



副院長就任のごあいさつ

国立病院機構沖縄病院
副院長 大 湾 勤 子

うりずんの季節になり、沖縄にとっては一番過ごしやすいこの頃、沖縄病院も川畑勉新院長のもと新しいメンバーを迎えて新年度をスタートしています。このたび副院長を拝命いたしました大湾です。呼吸器、感染症、緩和医療にたずさわってきました。呼吸器の分野で専門性の高い医療を提供している沖縄病院を希望して、琉大から出向のつもりで勤務して17年が過ぎました。医局は決して大きくはありませんが、各医師が自分の専門分野に誇りを持って働いていることが、私自身の勤続の励みになってきたように思います。「きちんと休んでくださいよ」と仰りつつ、一番働きの手を止めなかった元副院長の久場先生の診療姿勢に感銘しながら、素晴らしい先輩や同僚と研鑽を積んできました。そして何より患者さんとの出会いから一番多く学ぶ機会をあたえていただきました。とはいってもまだまだ未熟者で、「えっ、私が副院長?」と思っているのは私だけではないはず……。不慣れな業務がヤマのように目の前に置かれていて、責任の重さに身が引き締まります。「直面している状況を変えることができないときは、自分自身が変わらなくてはいけないときだ」と『夜と霧』の著者であるヴィクトール・E・フランクルは記しています。何かをはじめするのに必要なのは、柔軟さと勇気なのかもしれません。

当院は「神経難病、筋ジストロフィー」、「結核」の国の政策医療をはじめ、肺がん、緩和医療、内視鏡・放射線の診断、治療にも力を入れて取り組んできました。これまでの政策医療やがん専門病院のイメージは、地域の方々には少しハードルの高い病院という印象があったように思いますが、病診連携を通して患者さんのご紹介をいただきニーズに応えられるよう努めております。「一期一会」を大切に良質な医療を提供できるように努めると同時に、職員が誇りを持って働ける病院づくりをめざして微力ながら頑張っていきたいと思います。これまで同様にご指導くださり、お力添えをよろしくお願いいたします。

最後にマザーテレサの言葉を引用して挨拶を締めくくりたいと思います。

「あなたに出会った人がだれでも、

前よりもっと気持ちよく、

明るくなって帰るようになさい」

職員ひとりひとりがこのような思いで仕事にあたり、そして患者さん、ご家族がこのような気持ちでお過ごしになれるように努力してまいりたいと思います。

平成25年度

職員表彰

平成26年3月の管理診療会議において、臨床・研究・看護・経営・患者サービス等の部門においての年間の著明な功績と努力を讃え、職員表彰が行われました。

☆名誉院長賞(大城賞)



緩和ケア病棟 伊良部 梨知子

「がん性疼痛管理認定看護師の認定取得のための挑戦と努力を讃え、今後の指導者としての役割に期待し表彰する。」

☆名誉院長賞(源河賞)



麻酔科 高原 明子

「高度の麻酔技術の導入により、診療レベルの格段の向上と患者への多大な恩恵に感謝し、さらなる飛躍に期待し表彰する。」

☆院長賞 中4病棟

「効率的病床管理と周術期の安全管理に関する努力を讃え、今後のさらなる看護の質の向上に期待し表彰する。」

☆事務部長賞 北3病棟

「運営困難な混合病床にかかわらず、積極的入院受け入れの姿勢と快適な療養環境づくりへの努力を評価し表彰する。」

☆看護部長賞 外来スタッフ一同

「診療補助業務の充実及び明るい環境づくりへの取り組みを高く評価し、今後の新たな展開に期待し表彰する」



おめでとうございます

沖縄病院医師診療分野一覧(2014年)

役職	氏名	卒業大学・診療研究分野	所属学会等
院長	川畑 勉	名古屋大学(昭和59年卒) 呼吸器外科・一般外科・血管外科 肺、縦隔病変の診断と治療、抹消動脈再建後の晩期閉塞に関する研究	日本外科学会・専門医・指導医/日本胸部外科学会・認定医/日本呼吸器外科学会・専門医・指導医・評議員/日本臨床外科学会/日本消化器外科学会・認定医/日本内視鏡外科学会/日本呼吸器内視鏡学会/日本肺癌学会/日本呼吸器学会/日本血管外科学会/日本体育協会スポーツ医
副院長	大湾 勤子	琉球大学(昭和62年卒)、琉球大院(平成3年卒) 呼吸器内科・緩和医療 呼吸器感染症、びまん性肺疾患の診断と治療 肺癌の化学療法	日本内科学会・総合内科専門医/日本呼吸器学会・専門医/日本感染症学会・専門医・指導医/日本肺癌学会/日本結核病学会・指導医/日本緩和医療学会暫定指導医/日本呼吸器内視鏡学会/日本がん治療認定機構・認定医/日本医師会認定産業医
統括診療部長	末原 雅人	鹿児島大学(昭和57年卒) 神経内科・神経生理学 神経筋疾患・神経難病の臨床、HTLV-1関連疾患、ミトコンドリア異常症、沖縄県の遺伝性神経筋疾患	日本神経学会・専門医・指導医 日本神経免疫学会 日本内科学会

外科

臨床研究部長	河崎 英範	琉球大学(平成2年卒) 呼吸器外科・一般外科 肺癌の診断と治療、発癌と前癌病変	日本外科学会・専門医・指導医/日本胸部外科学会・認定医/日本呼吸器外科学会・専門医・指導医/日本肺癌学会/日本呼吸器内視鏡学会/日本肺癌学会/日本臨床外科学会/日本胸腺研究会/International Association for the Study of Lung Cancer (IASLC)
外科医師	伊地 隆晴	琉球大学(平成5年卒) 呼吸器外科・一般外科 消化器疾患の診断と治療、肺癌の集学的治療	日本外科学会・専門医/日本胸部外科学会/日本消化器病学会/日本消化器外科学会・認定医/日本消化器内視鏡学会/日本臨床外科学会/日本臨床腫瘍学会/日本癌治療学会/日本癌治療認定機構認定医
外科医師	久志 一朗	佐賀大学(平成6年卒) 消化器外科・緩和医療 消化器癌の集学的治療、緩和医療	日本外科学会/日本消化器外科学会/日本消化器内視鏡学会/日本癌治療学会/日本緩和医療学会
外科医長	饒平名 知史	琉球大学(平成7年卒)、九州大院(平成19年卒) 呼吸器外科・一般外科 呼吸器外科手術の安全性の確立、喫煙と発がん	日本外科学会・専門医/日本胸部外科学会・認定医/日本呼吸器外科学会・専門医・評議員/日本肺癌学会/日本臨床腫瘍学会/日本臨床腫瘍学会暫定指導医/日本癌治療学会/日本がん治療認定機構認定医/琉球医学会/International Association for the Study of Lung Cancer (IASLC)/日本がん治療認定機構暫定教育医
外科医師	平良 尚広	順天堂大学(平成17年卒) 一般外科・消化器疾患の診断と治療 呼吸器外科・呼吸器疾患の診断と治療	日本外科学会・専門医/日本救急医学会/日本臨床外科学会/日本呼吸器外科学会/日本肺癌学会/日本胸部外科学会/日本癌治療認定機構・認定医
外科医師	石川 清司(非常勤)	岡山大学(昭和49年卒) 呼吸器外科・一般外科 肺癌、縦隔腫瘍の診断と治療、肺癌集検の精度管理	日本外科学会・指導医/日本胸部外科学会・指導医/日本呼吸器外科学会・指導医/日本臨床外科学会/日本人間ドック学会/日本呼吸器学会・専門医・指導医/日本呼吸器内視鏡学会・指導医/日本肺癌学会・評議員/日本CT検診学会・認定医/日本胸腺研究会/日本医療マネージメント学会・評議員/日本緩和医療学会/日本サイコロジ学会/人間ドック健診情報管理指導士/日本がん治療認定機構暫定教育医
外科医師	野村 けん謙(非常勤)	琉球大学(平成元年卒)、琉球大院(平成7年卒) 国策沖縄愛楽園副園長 消化器外科・乳腺外科・呼吸器外科・超音波診断・内視鏡診断	日本外科学会・専門医/日本胸部外科学会・認定医/日本呼吸器外科学会・専門医/日本消化器外科学会・認定医/日本消化器内視鏡学会/日本肺癌学会・認定医/検診マンモグラフィ読影認定医師

麻酔科

麻酔科医師	高原 明子	福島県立医大(平成18年卒) 麻酔科 麻酔・周術期管理	日本麻酔科学会・専門医
-------	-------	-----------------------------------	-------------

呼吸器内科

内科部長	仲本 あつし敦	琉球大学(平成元年卒)、琉球大院(平成5年卒) 呼吸器内科 呼吸器感染症、肺癌の集学的治療	日本内科学会・認定医/日本呼吸器学会・専門医/日本肺癌学会/日本感染症学会/日本結核病学会・指導医/ICD・認定医
内科医師	藤田 香織	琉球大学(平成11年卒)、琉球大院(平成16年卒) 呼吸器内科、呼吸器疾患の診断と治療	日本内科学会・認定医/日本感染症学会/日本呼吸器学会/日本肺癌学会/日本結核病学会・指導医
内科医師	知花 賢治	琉球大学(平成12年卒) 呼吸器内科 呼吸器疾患の診断と治療、肺癌の診断と治療	日本内科学会・総合内科専門医/日本アレルギー学会・専門医/日本結核病学会/日本呼吸器学会・専門医/日本肺癌学会/日本呼吸器内視鏡学会/日本がん治療認定機構・認定医
内科医師	稲嶺 もり盛史	熊本大学(平成21年卒) 呼吸器内科 呼吸器疾患の診断と治療	日本内科学会/日本呼吸器学会/日本感染症学会/日本結核病学会
内科医師	久場 睦夫(非常勤)	山口大学(昭和46年卒) 呼吸器内科 呼吸器疾患の診断と治療、肺癌の化学療法、肺結核症の疫学・病態・治療	日本呼吸器学会・専門医・指導医/日本肺癌学会/日本呼吸器内視鏡学会/日本結核病学会・指導医/日本感染症学会/日本癌治療学会/日本CT検診学会・認定医/日本内科学会・認定医/日本がん治療認定機構・認定医/日本医師会認定産業医/World Association for Bronchology

緩和医療科

緩和医療科医師	福田 暁子	琉球大学(平成14年卒) 緩和医療科、麻酔科、緩和医療、疼痛管理	日本麻酔科学会・認定医/日本サイコロジ学会/日本緩和医療学会/日本ペインクリニック学会/日本ホスピス・在宅ケア研究会/日本医師会認定産業医
---------	-------	-------------------------------------	---

神経内科

リハビリテーション科部長	諏訪園 秀吾	鹿児島大学(昭和63年卒)、京都大院(平成4年終了) 神経内科、臨床神経生理、事象関連電位	日本内科学会/日本神経学会/Society for Neuroscience/日本ME学会/日本臨床神経生理学会・認定医
神経内科医師	中地 りょう亮	福井大学(平成15年卒) 神経内科、神経・筋疾患の診断と治療	日本内科学会・認定医/日本神経学会・専門医/日本脳卒中学会
神経内科医師	吉田 つよし剛	鳥取大学(平成19年卒) 神経内科、神経・筋疾患の診断と治療	日本内科学会・認定医/日本神経学会/日本リウマチ学会
神経内科医師	藤崎 なつみ	琉球大学(平成21年卒) 神経内科、神経・筋疾患の診断と治療	日本内科学会・認定医/日本神経学会/日本神経免疫学会
神経内科医師	城戸 美和子(非常勤)	愛媛大学(平成12年卒) 神経内科、神経・筋疾患の診断と治療	日本内科学会・認定医/日本神経学会・専門医

消化器・一般内科

総合診療科医長	樋口 大介	琉球大学(平成元年卒) 消化器内科、早期胃癌・大腸癌の内視鏡的治療、肝胆膵疾患の診断と治療	日本内科学会・総合内科専門医/日本消化器内視鏡学会・専門医/日本消化器病学会・専門医
---------	-------	--	--

放射線科

放射線科医長	大城 康二	琉球大学(平成6年卒) 放射線診断学、呼吸器疾患の画像診断	日本放射線学会・専門医/日本肺癌学会
--------	-------	----------------------------------	--------------------

感動と幸せの ウォッチング

管理課長 末次 英二

沖縄に赴任して、早1年。沖縄でいかに過ごそうかと思っていたが、毎月と言って良いほど色んなところでイベントが行われており、割と退屈はしない。

隣の同僚はイベントより、自然の方が好きで週末になると“やんばる”まで足を延ばし、花々や絶滅危惧種の観察に没頭し、地元沖縄の人も足を踏み入れたことのないジャングルへ入り、写真撮影したものを勿体ぶりながら見せてくれる。

今回、そんな同僚へも声を掛け、山ではなく海へ誘い出すことにした。

毎年12月下旬から4月の間、はるか遠いシベリア海域から温暖な沖縄の海へやってくるザトウクジラ。沖縄に居るからには、一度は、ホエールウォッチングに行こうと思っていた。

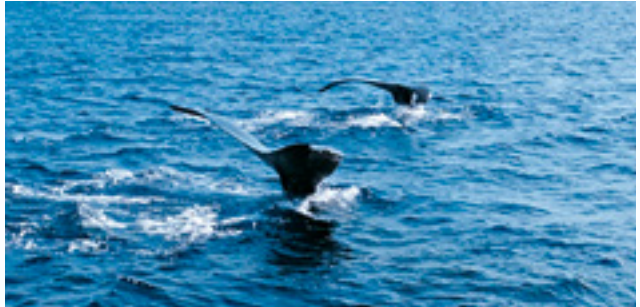
いよいよシーズン到来。それほど寒さを感じない沖縄だが、少し暖くなるのを待ち、週間天気予報を気にかけて3月1日に決行した。何日が前まで天候が危ぶまれたが、当日、幸いに曇りのち晴れの予報。

男衆おっさん6人出航時間の9時に間に合うよう乗り合わせで港へ向かった。

以前、体験した者の話では、クジラは、遠くの海上に小さく見えるだけで、乗船者の船酔いが大変ですよと聞いており、そこまでは期待せず潮吹きでも見れたら良しとする気で臨んだ。

4、5隻の船の中でも一番小さい船に乗船。揺れに強いという広告の船とは様子が違い、多少不満に思った。

いざ出航、那覇の港から慶良間諸島へ向かって邁進。沖へ出て諸島が見え出し、50分程経過したところでエンジン停止。船長からクジラが4頭いましたとの報告。観客は、船の1階、2階のデッキへ別れ数分海面をじっと凝視している。



本当に現れるのか、半信半疑。それから、数十分経過したとき船長が船を走らせながら、正面に居ると教える。よく見ると、はるか遠くに潮吹きが見えた。あーこんなもんか、少し感動。一度潜ると息継ぎに20分位は出てこないようである。

2回目潮吹き出現、船で追いかけるとやや近くに僅かな時間尾びれが見え直ぐに潜った。クジラは、尾びれを水面へ出すと深く潜りに入るようだ。潮吹きだけではなく尾びれも見れたことに、やや満足。

3回目出現、今回は近い。船の舵を取る船長。間近で3頭ほどのクジラの遊泳が見れ、観客からの大きな歓声、満足。多少不満に思った小型船だったが、小回りが利きどの船よりも早くクジラへ近づくことができた。後1回見れたら帰りますと案内があり、それから待つこと十数分。突然、自分たちの乗船している船の真横に3～4頭のクジラが出現。予測もしておらず、間近に出現したため興奮と大歓声があがった。ゆっくりと背面を見せ遊泳するクジラが潮吹きし、風の流れてその水飛沫を全員が浴びることとなった。慶良間地区では、クジラの潮吹きを浴びると幸せになるという言い伝えがあるそうだ。

出航から3時間程度、本当に貴重な体験に感動した。運の良いおっさん6人衆は、これから来るであろう幸せに何を期待するのだろうか。



永年勤続者表彰

平成26年4月25日(金)、30年・20年勤続されたことを讃え
永年勤続者に表彰式がありました。

永年勤続表彰者名

30年以上

職名	氏名
管理課長	末次英二
看護師長	比嘉千佳子
理学療法士長	藤内律子
看護師	比嘉恵子
看護師	久高眞利子
看護助手	高宮康子

20年以上

職名	氏名	職名	氏名
院長	川畑勉	看護師	徳留一美
副看護師長	砂川静香	看護師	伊波睦子
看護師	伊禮ゆき枝	看護師	池宮城澄子
看護師	小橋川英行	看護師	新里満
看護師	奥間明美	看護師	新里恵



編集後記

4月に入って車で町中を走っていると、お墓の前に一杯車が駐車していて清明祭をしている風景を見ます。沖縄に来た頃は、路上に駐車してある車がじゃまだと思っていましたが、最近は季節を感じさせる風物詩として見るくらいの余裕ができたつもりです。

それでも、新聞に昔の盛大な清明際の景色が見

られなくなったと書いてありました。お墓も核家族になっていっているみたいで、昔の習慣や方言等が廃れていくのは残念です。

庶務班長 海良田 猛

